

# 公益団法人第五福竜丸平和協会令和3年度(2021年)事業計画

令和3年・2021年3月21日

公益財団法人第五福竜丸平和協会理事会

第五福竜丸展示館は、開館から45年、船歴は74年となる。また、第五福竜丸エンジンが、展示館前広場に展示されて22年目を迎える。

本年はビキニ水爆実験から67年目、核兵器をめぐる大きな国際的トピックは、核兵器禁止条約が1月22日に発効したことである。その後も徐々に批准国は増えている。一方で核保有国による新たな核開発・軍拡が懸念される事態もある。

公益財団法人第五福竜丸平和協会は、今日の状況に留意し、定款にうたう貴重な木造船・第五福竜丸の現物をとおして伝える事業、原水爆の惨禍を再び繰り返させないとの市民の願いで保存展示が実現したことを踏まえた事業を広く都民・市民にむけてすすめる。また、国際社会に伝える。

本年度は、コロナ禍で昨年延期されたオリンピック・パラリンピックの開催にともない、夢の島公園がアーチェリー会場となるため、7月初旬より9月初旬まで公園全体が休園、臨時休館となる。なおこの期間も通常業務はおこなう。

昨年はコロナ禍で2カ月余の臨時休館、学校見学をはじめ多くの団体見学の中止、さらに来館者の大幅減少のもとで諸事業をおこなった。一方、ユーチューブでの福竜丸や関連イベントの配信なども試みた。本年はインターネット活動をさらにすすめる。また、都内をはじめ各地での第五福竜丸・世界の核被害のパネル展、「西から昇った太陽」上映会などの開催、実施をよびかける。

第五福竜丸からの発信の事業に力をそそぎ、また平和遺産、「ふね遺産」(産業遺産)としての第五福竜丸の存在とその意義を広く伝える。

今後の学校見学の拡大のための広報に特にとりくむ。来館者への対応、展示館の利用の拡大をはかる。

## 公益法人のかなめの事業としての展示館業務

・令和3年度は、展示館開館日255日、(平日201日、日祝日54日)となる。オリンピック・パラリンピック開催に伴う夢の島公園休園の7月初旬~9月初旬は、展示館も臨時休館する。ただし協会としての業務日数は、308日である。

・また春と秋の修学旅行・学校見学シーズンは通常どおり運営するものの、オリンピック・パラリンピック開催準備・撤収との関連で、公園駐車場の大型バス利用は、10月末までできなくなる。これへの対策、代替処置など近隣の江東区競技場、夢の島マリーナなどの駐車場利用の協力を得る。

・戦後76年、ビキニ事件67年という歳月は、「歴史上の遠い過去の事象」となり第五福竜丸や核被害を知らない世代が多数になることでもある。展示館の存在や利用に関する広報・宣伝活動にいつそう取り組む。

コロナ禍で見学を中止した学校、これまで展示館を訪れたことがない学校をはじめ、DMやインターネットなどの活用をはかり情報発信する。

・カラー版「展示館しおり」(日英版)を広報宣伝に活用する。

・展示館、財団公益事業を支える賛助会員、ニュース会員をひろげるとりくみ、第五福竜丸を伝える取り組みとしての『第五福竜丸は航海中』など書籍、広報資材の活用を広げる。

## 企画展【展示替え】等の取り組み

都との契約にもとづく展示替え(企画展等の開催)をすすめる。

#### ◆展示替その1<5月～>

◇展示館開館45周年記念の年表を製作し、展示する。

また、常設展示説明文の英文冊子の制作と配布をおこなう。

#### ◆展示替えその2<10月～3月>

・企画展としてパネル展を開催する。1946年から58年まで67回の原水爆実験がおこなわれたマーシャル諸島の被ばく者たちの訴え、こんにち気候変動により海面上昇、サンゴ礁の破壊がすすむマーシャルからの訴えを展示する。当地の実情に詳しい専門家による学習講演イベントを開催する。

・展示館開館45周年、秋の企画展の関連行事としてコンサート「くじらのこえ なみのこえ」を開催する。

・3・1ビキニ記念のつどい、子ども向け企画、市民向けの企画等をおこなう。

・第五福竜丸元乗組員で被ばくの証言活動を30年余にわたり続けた大石又七氏（協会評議員）のとりくみをたどる展示等をおこなう。

#### 第五福竜丸・ビキニ事件、世界の核被害を伝える取り組み

・「西から昇った太陽」（キース・レイミンク監督作品）の各地での上映活動をよびかける。映画の上映とともにビキニ事件・第五福竜丸の被ばく、広島・長崎後の核開発などへの学習のサポートをすすめる。

・「第五福竜丸・ビキニ事件」、「世界の核被害」「マーシャル諸島の核被害」パネルの活用などをすすめる。

・各地での学習会や講演会等の開催をよびかけ、講師等の派遣、オンライン活用や出前授業などをすすめる。

#### 船体・エンジン等の保存のための検討作業

・第3回3D測定データの分析と検討のための船体等保存検討委員会を開く。劣化がすすむエンジンの対策への検討を優先してすすめる。

#### 資料収集・研究活動、出版事業ほか

・「福竜丸だより」は展示館と賛助者、市民と第五福竜丸・財団の諸事業をつなぐメディアであり、隔月の発行をすすめる。「たより」別冊、展示館と協会の年次報告を作成し配布する。

・久保山忌句会40周年記念の作品を収めたブックレットを普及する。

・フォト・ジャーナリスト島田興生氏の連載「語り継ぐビキニ～マーシャルの人びととの40年」をまとめたフォトブックレットの普及にとりくむ。同氏の写真資料約100点余を所蔵資料として納める作業をおこなう（写真データと写真の解説）。

・マーシャル諸島のデジタル・アーカイブ制作の事業（島田興生、中原聖乃専門委員、渡邊英徳東大教授）に協力する。マーシャル諸島へのスタディツアーに協力する。

・「福竜丸だより」をウェブサイト上で公開する作業をすすめる（現在100号までアップ）。

・発足20周年をむかえたボランティアの会の活動を顕彰する。

以 上